

古賀辰四郎君此の度監綬章を授けられ
たる吉報に接し余は友人として深く君
の光榮を慶す君が尖閣列嶋を經營する
の初に當りてや人多く之れを危み甚
しきは竊に指笑するものありしを知る
絶海無人の孤嶋其業たる實に容易なら
ず報酬を厚くして漸く労働者を得汽船
を賃してからうじて食料を供給し新に
岩礁を碎て舟の碇泊場を設け或は諸菜
を裁て不時の用意に供ふる等の困難に
加ふるに鳥毛の採集より鳥類の剝製に
變り貝類の漁撈は鯉船の製造となり事
業の曲折又た苦心の抄からざりしを見
るに足る今は經營其の緒に付き更に一
大利源の發見ありて大發展の域に達せ
んとし漸く人に羨望せらるゝに至れる
も君の如き熱心精力人に超越したるも
のなきに非は終始一貫此の孤嶋を玉化
せしむるに堪わしや否哉に期すべから
ず此の如き苦境を経て茲に成效の一端
を國家に認められたる君の喜余は遙察
に余りあるを知る

今にして人もうらやむ浦島か

このよるこひにあへる君かな

君か齎ける未來の金殿玉樓は乙姫の昔
語りに非す必ず現實すべきを信じ且つ
國家の爲に之を訴るもの也